

口語フランス語における je sais pas quoi について

山 本 大 地*

0. はじめに

本稿で取り上げるのは、je sais pas quoi（以下、JSPQ と表記）という表現である。まずは、その構造について基本事項を確認しておく。JSPQ は、一人称単数代名詞の主格 je、動詞 savoir の直説法現在 sais、否定辞の pas、そして直接目的補語の位置を占める不定疑問代名詞 quoi によって構成されている。この表現に限らず、否定辞の ne は話し言葉において頻繁に省略される。quoi について補足すると、quoi が直接目的補語の位置を占めるといっても、例えば Tu manges quoi? 「君は何を食べる?」のような単純な構造とは異なる点に注意する必要がある。quoi は言語化されていない主述とともに間接疑問節の一部を成しており、全体として「私は何を知らない」でなく「私は（それが）何かわからない」と解釈される。わかりやすい例を書き言葉から一つ挙げておく。

- (1) Il donna de la tête à droite et à gauche, comme une bête qu'on irrite et qui hésite encore à foncer.-qu'est-ce que tu veux dire? Je ne comprends pas. Je ne comprends rien. Parle clairement... clairement, entends-tu? Il y a quelque chose entre nous. *Je ne sais pas quoi*. Je veux le savoir.

(FRANCE Anatole, *Le Lys rouge*, 234, Frantext)

* 福岡大学人文学部准教授

言語化されていない主述を言語化して言い換えるとすれば、「*je ne sais pas ce que c'est*」となる。なお、従属する間接疑問節の主述を言語化すると *quoi* は許容されない。「*je ne sais pas quoi c'est*」は非文法的であり、*ce que* に変更する必要がある。いずれにせよ、基本的に JSPQ は統語構造を備えた通常の文であるといえる。本稿で検討したいのは、こうした JSPQ が話し言葉において一種の談話標識的な役割を果たしている可能性である。一例を挙げると、次のイタリックで記したような使用法を問題とする。

- (2) DE744: *mais non parce si il y en a une qui a été construite dans le même esprit à Nevers*
- JR: *hm*
- DE744: *récemment*
- DE744: *et là à mon sens c'est un désastre*
- DE744: *un désastre on croirait un blockhaus du mur de l'Atlantique*
- JR: *ah oui ce Nevers c'est euh*
- DE744: *dans une espèce de de de*
- JR: *oui de glaçon encastré*
- DE744: *oui alors là alors on s'attend à voir sortir un canon de de marine ou je sais pas quoi mais c'est c'est non franchement non*
- DE744: *y a*
- JR: *oui*
- DE744: *pas le le petit côté génie de Le Corbusier*
- DE744: *quoi* (Enquêtes Sociolinguistiques à Orléans)

この場合、(1) と異なり、JSPQ は先行する発話に対して補助的な働きをしているように見受けられる。次例では、JSPQ のすぐ後に「*je sais plus ce que c'était*」が続いており、JSPQ を「*je sais pas ce que c'est*」等と解釈するなら

ば、ほぼ同じ内容を伝達する発話が連続していることになってしまう。この種の JSPQ は、独立した発話とは異なる働きを担っていると考えたほうが妥当である。

- (3) 1254: oui si si vous le voyez dans ce sens c'est pas regrettable
 mais s'il s'infiltré avec de mauvaises traductions ça c'est
 hein
- 1254: [rrire:noise:instantaneous]
- JSM: oui oui
- 1254: hein ?
- 1254: j'avais vu une fois lavatory ou *je sais pas quoi* mais *je sais plus ce que c'était* il y avait des choses comme ça
- 1254: les choses sont pas du tout pas du tout à leur place

筆者の知る限りでは、JSPQ を談話標識の枠組みで取り上げた論考はなく、それどころか、いかなる枠組みにおいても特別に注意を払われたことはない。しかしながら、JSPQ は日常会話において頻繁に現れ、談話を円滑に、効果的に進めるための方策として一役買っているように思われる。また、JSPQ の用例を拾っていくと、(2) や (3) のタイプ以外にも興味深い使用法がみられる。本稿ではそれらを分類しつつ、JSPQ の使用の実態を提示することを試みる。

1. 使用コーパス、用例収集方法

話し言葉における実態を観察するという目的から、フランス語会話コーパス *Enquêtes Sociolinguistiques à Orléans* (以下 ESLO) を使用した。以下に提示する例の出典はすべて、このコーパスである。このコーパスには、1968 年から 1984 年の間 (ESLO1)、および 2008 年以降 (ESLO2) にフランスのオルレアンで行われたインタビュー、講演、日常会話の音声、およびそれらが文字化されたデータが含まれており、特定の語、語配列が検索可能である。な

お、ESLO1 と ESLO2 には時間的な隔たりがあり、その間に JSPQ の用法に
関してなんらかの変化が生じている可能性もあるが、本稿では二つの期間の隔
たりは無視することとした。語ごとに半角スペースを挿入し、je sais pas quoi
（“_” は半角スペースを表す）と入力する。検索条件は motif exact（入力し
た語配列を得る条件）である。こうして得られた je sais pas quoi という語配
列は、全部で 122 例存在する。この中には、動詞の不定法が後続する « je ne
sais pas quoi dire » 「なんと言えよかわからない」というような例も含ん
でおり、それら 13 例を除いた 109 例を考察の対象とする。その中には依然と
して、前述の (1) に相当する独立した発話を構成する例も含んでいる。ただ
し後述するように、独立しているといっても同じ話者による発話の連鎖内で現
れることが多く、独立しているのか、先行の発話に付加しているのか、形式的
には判断しがたい。その線引きをいかに行うかを検討するためにも、まずはそ
うした例も含めて本稿の考察対象としておく。

2. 用例の分類

ESLO における JSPQ の現れ方はいくつかのパターンに分類できる。収集し
た 109 例を、統語環境、意味、機能を考慮に入れて大まかに分類すると、以下
のようになる。ただしこの分類は暫定的なものであり、今後考察を重ねること
によって変更を加える可能性は大いにある。

1. 独立した発話を構成する場合

- (4) PB: vous trouvez que c'est une idée utile ?
BU77: oui certainement oui
PB: un organisme comme cela ?
BU77: ben c'est à je crois que ça revient un petit peu avec
 euh le CNRS mais un petit peu ça mais pour les choses

- scientifiques ça doit être la même chose euh pour les
langues euh
- BU77: pour la langue française ceux qui font des des dictionnaires
enfin qui les révisions des dictionnaires je pense
- PB: oui
- BU77: mais *je sais pas quoi*

2. ou を介して別の発話に付加される場合

- (5) FA192: alors ce pauvre garçon vous savez là j'ai pas bien regardé
comment il est habillé mais autrement il a toujours cravatte
(sic) noire la veste bleue marine
- FA192: le pantalon gris foncé les chaussures noires alors
- FA192: en ce moment qu'il fait beau vous savez que les autres sont
en polos *ou je sais pas quoi* il fait un effet et puis alors
- FA192: Benoît il me dit de toute façon pendant la journée ça va il
est là il on parle et puis tout à coup on hop l'image doit lui
revenir devant lui alors que aussitôt euh

3. 直接別の発話に付加される場合

- (6) 272LOC1: oh tu l'as emmené où ?
- DM95FEM: oh
- 272LOC1: à à Vendôme non quand même pas
- DM95FEM: non rien que de voir de l'extérieur j'avais peur
- DM95FEM: ben il a fait des cauchemars la nuit
- 272LOC1: ah bon?
- DM95FEM: rien que de voir l'extérieur y avait un gros un espèce de

crocodile *je sais pas quoi*

4. 発話の内部に挿入される場合

- (7) WC29: m- mais mais elle elle prend ça de la même façon que euh
faire de l'espagnol
WC29: elle dit c'est ou de l'anglais mais bon
WC29: hop euh on parle comme ça comme ça mais c'est c'est
vraiment à
WC29: pour moi c'est pas une langue hein c'est un truc euh
comme j'étais gamin euh
WC29: les les jeunes dans le quartier ils parlaient euh *je sais pas
quoi* javanais machin euh mais moi j'ai jamais rien compris
là-dessus

5. 発話の項構造に組み込まれる場合

- (8) EM229: je sais pas c'était euh des internes qui travaillaient à l'hôpital
enfin des
EM229: des fils de docteurs c'est des fils de docteurs plutôt
EM229: qui voulaient organiser quelque chose car ils fêtaient *je sais
pas quoi* ils avaient pas de local
EM229: alors nous avons prêté notre euh salle

それぞれについて解説を加える。1. では、JSPQ がそれ自体で一つの完結した意味内容を伝達すると考えられる。このような発話を特別に談話標識とみなす必要はないように思われる。2. は JSPQ が等位接続詞 *ou* を伴って、先行する別の発話の末尾に付加される場合である。このとき JSPQ は先行する名詞句 X

と選択的な関係を結んでおり、述定を満たす要素が X の指示対象だけでなく、他の要素も可能性としてありえることを示している。一方 3. は ou を伴わず、別の発話の末尾に直接付加されているが、意味的には 2. と同様に解釈できる。4. は JSPQ が別の発話の内部に挿入される場合である。ただし JSPQ はその発話内の要素と統語的な関係をもたない。この場合、用法 2. 3. と異なり、先行する発話内容よりも、後続する発話内容と関わり、言うべき内容を思索している印象がある。そして、5. は JSPQ が別の発話の内部に埋め込まれており、かつ、その発話の文構造において、なんらかの統語的位置を占めている場合である。より具体的には名詞句が生起する位置であり、主語、目的補語等、発話の項構造に組み込まれている場合もある。また、前置詞の後に生起することもある。意味的な働きとしては、話者にとって不明の対象を指しており、quelque chose に相当する。

分類は容易ではなく、判断しがたい場合があることを指摘しておかなければならない。まず、1. の独立した発話を構成する場合と 3 の発話に付加されている場合は、区別しがたいことが多い。(4) の例では mais があるために、先行する発話との区切れが明瞭であるが、独立した JSPQ が必ず mais を伴うわけではなく、次例のように、同じ話者の発話の連鎖内で JSPQ が現れてしまうと、3. との違いが見た目には判別しがたい。

- (9) MF363: mais après je suis retournée vers les études hein
 ch_OB1: ah oui alors après vous êtes re-
 MF363: ah oui oui après je j'ai fait euh hm
 MF363: je sais plus comment ça a changé de nom maintenant au
 niveau à l'université là *je sais pas quoi*
 MF363: une remise à niveau pour aller jusqu'au
 ch_OB1: à le DU d'accord
 MF363: pour le bac-

ch_OB1: ouais ça s'appelait l'U t-

ch_OB1: ça devait s'appeler les E

ch_OB1: ou un truc comme ça quoi ouais ouais ouais ouais

一つの判断基準として、「*« je sais pas (plus) ce que c'est »*」[それが何かわからない(覚えていない)]等に言い換えることができるかどうかを挙げるができるだろう。言い換えが可能であれば、独立した発話を構成しており、言い換えに困難が伴う、もしくは言い換えると意味が異なるようであれば、独立性が低いとみなすわけである。実際、2.から5.の用法に相当する例を「*« je sais pas (plus) ce que c'est »*」で言い換えると、理解が困難な発話となるか、意味合いが変わってしまう。ただし後者の場合、言い換え自体は可能であるために、意味が本当に変わっているかどうかの判断は恣意的にならざるを得ない。4.と5.の区別も必ずしも定かではない。例えば4.に相当する(7)において、JSPQが目的補語の位置を占めており、その後、javanaisによって具体化しているとみなすことも可能である。その場合5.に相当することになる。5.の用法それ自体も、本当にJSPQが名詞句の位置を占めているといえるかどうか議論の余地はある。発話を中断して、言うべき内容がわからないことを表明している可能性もある。次の例はまさに発話を継続しようとしたが、直接目的補語を埋めるべき名詞句が浮かばず、中断している印象がある。言い直しを表す *enfin* が使用されているためであろう。

(10) VX479FEM: des fois je vais les regarder y a quelque chose qui
m'intéresse euh

VX479: oh

VX479: mais non

VX479FEM: à part les

VX479FEM: [pif:pronounce:previous]

VX479: elle va prendre des Nous Deux elle va prendre des

VX479: *enfin je sais pas quoi*

しかしながら、(8) の自然な解釈は *quelque chose* であり、このような例はほかにも豊富に存在する。とりわけ次例のように、JSPQ が主語位置を占める場合は、発話の中断とみなすよりも、JSPQ が *quelque chose* に相当する意味をもって、名詞句の代わりを果たしていると考えのほうがより自然である。

(11) WC29: *et là je peux même pas dire euh monsieur le maire il a essayé de la réf- il a réformé un petit peu les fêtes de Jeanne d'Arc*

ch_NS3: *ah bon ?*

WC29: [bb:noise:instantaneous]

WC29: *hm c'est pas une réforme euh*

WC29: *sur euh beaucoup critiquée*

WC29: [i:noise:instantaneous] *parce que le euh le le cortège a été raccourci et je sais pas quoi a été supprimé et je sais pas quoi alors ça c'est*

WC29: *assez marrant*

以上のように、分類し難い事例が存在するため、109 例における各用法の分布を正確に示すことができない。しかし、分類が比較的容易な用例に限って検討すると、それぞれ、用法 1. が 6 例、用法 2. が 46 例、用法 3. が 22 例、用法 4. が 4 例、用法 5. が 21 例、少なくとも存在すると考えられる。1. の用例数から判断すると、日常会話においては JSPQ が独立した発話として使われることのほうがまれなようだ。反対に、2. の用法は最も多く、口語における JSPQ の使用を特徴づけているといえる。この点は書き言葉における JSPQ の使用と比較することでより明確になるだろう。

これら 2. から 5. の用法のいずれにおいても、JSPQ は談話を円滑に進めることに貢献しているといえる。2. と 3. では、述定を満たす項が選択した X でな

い可能性はあるが、話者は一応の値として X を提示することができる。また、その点について対話者からの修正を期待することもできる。4. では、後続内容が頭に思い浮かばない場合に、JSPQ を発することで発言を維持することができる。5. についても、述定を満たす項についての知識が欠如しているとしても、ひとまず仮に JSPQ でその項を満たし、発話を続けることが可能である。

3. JSPQ は談話標識に相当するか

JSPQ は、談話を円滑に進めることに貢献する、という広義における談話標識とみなすことに問題はなさそうだが、以下では談話標識をより詳しく定義したうえで、JSPQ が談話標識に相当するかを検討してみたい。そもそも、JSPQ の用法だけを比べてみても、それぞれの文法的なステータスは大きく異なっている。3. と 4. は、JSPQ を伴う発話内の文構造に組み込まれない形で発話に添えられているが、2. は等位接続詞を用いて接続されており、5. は明らかに文の統語構造に組み込まれている。このような文法的なステータスは談話標識の定義にも関わることである。ここでいう「談話標識」は *marqueur discursif* の訳語である。ほかにも、*marqueur pragmatique*、*mot du discours*、*particule discursive*、*particule énonciative*、*connecteur* 等といった用語が存在し、それらに含める言語単位もその定義も研究者によってさまざまである。本稿では、細部に深く立ち入らず、基本的に許容できる談話標識の特徴でもって談話標識を定義するに留めておきたい。大多数の談話標識は副詞、形容詞、名詞、動詞といった開いた語彙クラスに属する語が基礎となっている。例えば *ben*、*bon*、*bref*、*tiens*、はそれぞれ副詞、形容詞、名詞、動詞から生まれた談話標識である。こうした言語単位が「談話標識」として別個の文法クラスに分類されるのは、元のクラスと異なる特徴を獲得しているからである。Dostie (2004)、および Dostie&Pusch (2007) を参考に、次の特徴を挙げておく。

- (12)a. 音韻的な減少を伴う
- b. 不変化である
 - c. 発話の他の要素と統語関係を持たない
 - d. 発話の命題内容に貢献しない

これらの特徴は、それぞれ音韻、形態、統語、意味の領域に属し、言語の特定の側面に偏らない特徴づけを意図している。それぞれ補足を加えよう。a. について、bien から ben へ、またケベックフランス語の écoute donc から coudon への変化のように、ある語彙クラスに属する語が談話標識に変化する際には、なんらかの形で音素が減少することがある。「音韻的な減少」(réduction phonologique) とはこのことを指している。すべての談話標識に音韻的な減少が伴うわけではなく、定義的な特徴とはいえないが、JSPQ は後述するように [ʃɛpa] と発音されることが多く、音韻的な減少がみられるかどうか検討する価値はある。b. について、例えば allez 「さあ」が tu で接する対話者にも使用されるように、談話標識には人称による変化をしないという現象が見られる。また形容詞の bon は性数一致を行うが、談話標識の bon は常に男性単数のままである。不変化とはこのような現象を指す。ただし、これについても tu vois / vous voyez というような談話標識があることからわかるように、必ずしも不変化になるわけではない。c. は談話標識が付随する文に構造的に組み込まれないことを述べている。そのため談話標識を発話から取り除いても、文の文法的な適格性には影響しない。d. は意味的なレベルで、談話標識が伴う発話の命題内容に貢献しないことを指しており、談話標識の有無によって、発話が伝達する命題内容の真理条件が変更されることはない。なお、この定義には、談話標識を定義するうえで重要な、機能的(語用論的)特徴が欠けているが、やはりこの点も研究者間による意見の相違が大きく、ここではあえて言及しないことにする。

さて、これらの特徴は談話標識を、名詞、動詞、形容詞、副詞といった主要

な（かつ、由来となる）品詞と根本的に区別するものである。JSPQ は一つの品詞に属する語でなく、主述を伴った統語構造を成しているという点において、副詞や形容詞由来の談話標識と事情は異なる。そのため、これらの特徴に照らし合わせることが難しい場合もあるが、そうした難点にも言及しつつ、以下でその適用を試みる。まずさきに b. 不変化について言及し、その後 a. 音韻的な減少を伴う否か、次いで談話標識の統語的、意味的な特徴 c. と d. を有しているかどうかを検討する。

3. 1. 不変化

不変化か否かと問うならば、JSPQ は不変化である。形式的に男性女性の区別も単数複数との区別もないためである。しかし、もともとが一つの品詞に属する語でなく、主述を備えた文である以上、変化しないのは当然であるといえる。ここでは代わりに je, sais, pas, quoi の各要素と範列関係にある他の語、すなわち je ではあれば tu や il, sais ではあれば savais や saurai, quoi ではあれば qui や comment 等を使用可能か否かを検討してみたい。ただし他の語を使用すれば意味の相違が生じる以上、これは純粋な形態論の問題ではない。

3. 1. 1. 主語、時制

主語人称代名詞として je が使用されているが、je 以外の主語を伴った、例えば il sait pas quoi も文法的に可能な組み合わせである。また sais は直説法現在であるが、それ以外の時制を用いた je savais pas quoi も当然ありえる。実際、後続する不定詞や節を伴う場合の例は存在する。

(13) 449PERS: il a que sa voiture alors le dimanche *il sait pas quoi faire*

(14) VX479: mais non *elle sait pas quoi répondre*

(15) HT398: *je savais pas quoi lui offrir*

ところが、さきほど分類した 2. から 5. の用法をもつような事例は、他の主

語、他の動詞の時制でも見つからなかった。この事実は容易に説明可能である。すなわち JSPQ が談話においてメタ的な役割を担うことができるのは、問題となっている事柄について「話者の」そして「現在の」無知を述べるのが重要だからであろう。

3. 1. 2. 否定辞 pas

次に pas 以外の否定辞の使用を確認する。統語環境が pas と範列関係にある jamais と plus を検討してみたところ、jamais は一例も見当たらなかったが、plus については 22 例存在する。(16) から (18) の例はそれぞれ、用法 2. 3. 5. に相当するだろう。

- (16) ZZ431: de nouveau là cette année ils ont mis une roue une grande roue
 DC528: ouais puis les petits hm
 ZZ431: euh la patinoire euh
 ZZ431: là ils ont fait aussi un quartier
 ZZ431: je crois euh
 ZZ431: Québec ou Suèd-
 ZZ431: Suède *ou je sais plus quoi*
- (17) WX414: non lui il avait fait euh
 WX414: The lady
 WT075: ah oui oui oui je vois avec
 WT075: la Chinoise euh ou euh la coréenne *je sais plus quoi*
- (18) ch_AC7: et il change d'à chaque fois et il a pris l'autre fois un traiteur de Meung-sur-Loire
 YR23: ah ouais
 YR23: et sur Orléans non y a

ch_AC7: et y avait marqué en entrée écrevisses de *je sais plus quoi*

3. 1. 3. 疑問詞

続いて、*quoi* 以外の疑問詞の使用が可能であるかどうか検討する。ここでは *qui*、*comment*、*quand*、*où* を検討の対象とする。*je sais pas qui / comment / quand / où* の生起は多くの場合、不定詞や節といった後続する要素を伴っており、明らかに独立性が高い発話を構成している。

(19) TN153AMI: cette année *je sais pas qui c'est*

(20) BU77: j'aime beaucoup euh Knittel Knittel *je sais pas comment vous appelez*

しかしながら、JSPQ の用法 2. から 5. に相当するような例もいくつか存在する。*je sais pas qui* については用法 5. に相当する一例が見つかった。

(21) FA192AMII: ils n'ont pas épousé des païennes quand même des filles sans foi ni loi je crois pas

FA192AMII: il y a même quelqu'un qui leur a dit ouh là là vous prêchez vous

FA192AMII: vous

FA192AMII: tapez sur la bourgeoisie et tout ça et c'était un *je sais pas qui* qui a épousé la fille d'un chirurgien

この例では、不定冠詞 *un* を伴っていることから示唆されるように、*je sais pas qui* は名詞句の位置を占めている。

je sais pas comment は用法 3. に相当する例が一例と、付加的に名詞を修飾している例が一例存在する。

(22) CI58: ils disaient au pouvoir comment c'est qu'ils qu'ils l'appelaient donc

CI58: au pouvoir

- CI58: [pi:pronounce:instantaneous]
 CI58: oh je me rappelle plus
 CI58: au pouvoir de Gaulle oh je sais plus comment
 CI58: à bas ou à bas
 CI58: de Gaulle *je sais pas comment*
 CI58: [rire:noise:instantaneous]
 (23)IC346: parce que dans le temps vous savez les gens parlaient en
 campagne tout ça vous savez
 IC346: qu'est-ce qu'ils ébréchaient les mots et puis
 IC346: faut les comprendre vous savez
 IC346: c'est pas toujours facile
 IC346: [rire:noise:instantaneous]
 IC346: ils parlent un français *je sais pas comment*

疑問副詞 *comment* は付加形容詞的な用法をもたない。それにもかかわらず、この例の *un français je sais pas comment* は、先行する名詞 *français* を意味的に修飾しており、「なんとよいかわからない (よって無茶苦茶な) フランス語を話す」と解釈可能である。

je sais pas quand については、用法 2. と 4. に当たる例が一例づつ存在する。

- (24)MC59: et je crois qu'y a une vieille histoire d'une statue
 MC59: d'un
 MC59: euh qui avait été commandée à
 MC59: hm
 MC59: à
 MC59: à un sculpteur après la guerre de quatorze
 MC59: ou *je sais pas quand* quoi c'est très vieux hein
 (25)SD272: enfin maintenant on va faire un soi-disant un hôpital

formidable je veux bien et on va on commence à mettre la première pierre
je sais pas quand la semaine prochaine il me semble

je sais pas oùについては、他の疑問詞に比べ、JSPQ に類する例をより多く見出すことができる。用法 2. に相当する例が 5 例、用法 3. が 1 例、用法 4. が 1 例、用法 5. が 1 例存在する。(26) - (29) はそれぞれ用法 2. から 5. に相当する例である。

(26) EL722: d'ailleurs j'y avais pensé un peu dans les eaux et forêts
EL722: y a une école euh pas très loin d'ici je crois à Bourges *ou je sais pas où*

(27) PF42: c'est normal
PF42: surtout les jeunes gens quand même hein
PF42: ils allaient camper ils vont
PF42: mon aîné là il s'en va
PF42: en Finlande *je sais pas où*
MB: hm hm
MB: et si v- et si vous aviez disons deux heures de temps libre supplémentaires par jour qu'est-ce que vous en feriez ?

(28) MY510: ils sont en train de faire là ils sont en train de faire euh
MY510: euh une salle des sports
MY510: par je sais pas où s- euh
JR: oui
MY510: par les par le lycée

(29) BI58: parce que y a des fois euh
ch_LA11: hm hm
ch_LA11: qui n'ont pas le statut d'interprète mais
ch_LA11: qui peut se faire appeler euh

BI58: mais non c'est l'aide soignant du bloc de *je sais pas où*

ch_LA11: ah oui d'accord ah c'est ah d'accord

また、次例は *quelque part* に言い換え可能な用法であり、*où* が場所に関わる疑問副詞であることを考えると、JSPQ が名詞句の位置を占めることができることと並行的にとらえることができる。この種の例は 3 例存在する。

(30)GJ131FEM: je ne vois rien qui puisse euh vous

GJ131FEM: vous rendre service de ce côté-là parce que

GJ131FEM: mais on est on est

GJ131FEM: trois

GJ131FEM: trois ménages trois ménages de l'est

GJ131FEM: bah y en a un qui habite Olivet y en a un qui habite *je sais pas où*

GJ131FEM: alors on se voit

ただし、(29) でみたように *je sais pas où* には名詞句の位置を占める例も存在する。

以上のように、他の疑問代名詞、疑問副詞についても JSPQ に準ずる用法を見出すことができる。しかしながら、用例数は圧倒的に JSPQ のほうが多い。その理由の一つは、JSPQ の万能な性格にあるように思われる。すなわち、対象がモノであるから *quoi* が使用されているとは限らないのである。問題となっている事柄が人、場所、時、また数である場合も JSPQ が使用されることがある。

(31)GG675: et c'est qui qui y va ?

GG675: Mickael il y va ?

GG675PER: non

GG675PER: il est pas là

GG675: bah

- GG675: Fred tu m'as dit qu'il était blessé
- GG675PER: ouais mais bon
- GG675: ben y a plus personne vous allez faire forfait- vous allez faire forfait
- GG675PER: non non y a Hervé puis un jeune *je sais pas quoi*
- GG675: ah bon ?
- (32)OU: et parmi les gens que vous avez entendu euh je sais pas faire des discours à la télévision *je sais pas quoi*
- OU: n'importe où euh
- OU: je sais pas sans les connaître personnellement
- OU: est-ce quelqu'un vous a frappé euh par la façon dont il parlait ?
- (33)440PERS: ça rejoint un peu les derniers événements dont faudrait dire un mot et auxquels était mêlé François Mitterrand
- 440PERS: l'histoire des derniers événements
- 440PERS: entre nous
- 440PERS: ça joue un peu
- 440PERS: une lettre que vous m'avez écrite et je crois vous avoir répondu dans ce sens
- 440PERS: où dans laquelle vous m'avez dit monsieur nous comptons faire notre enquête au mois de mai ou de juin ou *je sais pas quoi* et
- 440PERS: les événements nous ont empêchés d'y aller le faire
- (34)FE32: tu as entendu parlé de l'Entente Orléans Basket
- FE32: qui désire une grande salle de euh avec euh dix mille spectateurs *ou je sais pas quoi*

仮に独立した発話が同じ位置に生起するならば、「je sais plus qui c'est」、
 « je sais plus quand c'était », « je sais plus combien c'était » 等、それぞれ開
 題となっている対象に応じた疑問詞を使用する必要がある。疑問詞 *quoi* それ
 自体は万能ではないため、これは JSPQ という表現に固有の問題ではないだろ
 うか。

3. 1. 4. 否定辞 *ne* の省略

JSPQ における *ne* の省略の頻度が、それ以外の場合の *ne* の省略よりも高い
 かどうかを検討する。もし JSPQ における *ne* の省略の頻度が、他の場合に比
 べ突出して高ければ、JSPQ は形式的に固定されている、といえる可能性はあ
 る。この問題は主語や動詞の時制、疑問詞と異なり、意味が関与しない。

JSPQ と同じ音韻的、統語的環境における *ne* の省略の頻度を見るために、
 比較する対象は、*je ne sais pas / je sais pas* に間接疑問節の *si...* が後続する場
 合とする。*ne* の省略には社会言語学的な要因、すなわち、年齢、性別、社会
 階級、レジスター等が関与することはいうまでもなく、これらの条件を同一に
 して調査することが望ましい。しかしながら、同一の話者による同一のイン
 タビュー内に制限すると、用例数が非常に限られてしまうため、今回はやむ
 を得ず ESLO 全体を調査対象とした。その結果、*je ne sais pas si* の生起数は
 198 (21%) であるのに対し、*ne* が省略された *je sais pas si* の生起数は 746 例
 (79%) であることがわかった。他方、*je ne sais pas quoi* は 6 例 (5%) のみ
 で、*ne* が省略された *je sais pas quoi* は 109 例 (95%) であった。このように、
je (ne) sais pas si における *ne* の省略の比率に比べると、確かに JSPQ におけ
 る *ne* の省略のほうが頻度が高いことがわかる。しかし、両者の間に大きな開
 きはなく、JSPQ の形式が固定化されていると判断するのは難しそうである。

3. 2. 音韻的な減少 (réduction phonologique)

続いて、JSPQにおいて音韻的な減少が生じているか否かを検討してみたい。より具体的には次の点が問題になる。neが省略される場合、jeに含まれる脱落性のeは頻繁に落ちる。そしてjeの [ʒ] とsaisの [s] の二つの子音が隣接することによる同化作用 (assimilation consonantique) の結果、jeの [ʒ] が [ʃ] となる。しかしそれだけでなく、saisの [s] が落ちて [ʃεpa] と発音されることが多い。この場合、音韻的に減少しているといえる。問題は、この現象がJSPQにおいてどの程度の頻度で生じているかである。もし高い頻度で生じているならば、JSPQには音韻的な減少が起きているといえることになる。音韻的な減少に関しても、neの省略と同様、社会言語学的な要因が大きく作用するため、やはり同一の話者の同一のインタビュー内に限定して調査することが理想的であるが、十分なだけの生起数を得られないため、ここでもESLO全体を調査の対象とすることにした。比較の対象にするのはje sais pas si...である(ただし、検索結果に現れたはじめの100例に限定する)。なお、書き言葉ではj'sais pasと綴ることもあるが、この綴りはESLOの書き起こしに一例も存在しない。また、[ʃεpa] と発音されているか否かの判断は、筆者が録音を聞いて行った。その結果、JSPQについては9例(8%)において[ʒəsεpa] と発音され、それ以外の100例(92%)において[ʃεpa] と発音されていると判断できた。一方je sais pas si...の場合、23例(23%)において[ʒəsεpa] と発音され、77例(77%)において[ʃεpa] と発音されていると判断可能であった。否定辞のneの省略同様、大きな開きはないものの、je sais pas si...よりもJSPQにおいて、より音韻的な減少が生じていることが確認できた。この結果からなんらかの結論を出すことは難しいが、さらに調査を続ける価値はありそうである。

3. 3. 統語的、意味的特徴

最後に、JSPQ の 1. から 5. の用法それぞれについて、談話標識の統語的な特徴と意味的な特徴を備えているかどうか考えてみたい。談話標識の統語的な特徴とは「c. 発話の他の要素と統語関係を持たない」であり、意味的な特徴とは「d. 発話の命題内容に貢献しない」である。以下に JSPQ の 1. から 5. の用法の特徴を再掲する。

(35)1. 独立した発話を構成する場合

2. ou を介して別の発話に付加される場合
3. 直接別の発話に付加される場合
4. 発話の内部に挿入される場合
5. 発話の項構造に組み込まれる場合

1. は他の発話に対して補助的な役割を担っているのではなく、独立した発話を構成しているため、発話の他の要素との統語関係について判断することは不可能である。意味的には、他の発話の命題内容に貢献していないが、JSPQ 自体が一つの命題的な意味内容を伝達しており、やはり談話標識とみなすべきではないだろう。

2. はどうだろうか。この場合、等位接続詞 ou があるため、先行する名詞句と統語的な関係を結んでいるということになる。意味的には、ou JSPQ は命題内容の一部を成しているようにみえないが、命題内容の真理条件と無関係でないことも確かである。(36) の ou JSPQ を伴う発話を、それを取り除いた場合 (36') と比べてみよう。

(36)ch_CD2: alors euh la petite fille elle est là euh

ENT_3INC: ouais

ENT_3INC: [rire:noise:instantaneous] hm hm

ch_CD2: en plus il s'appelle chipper ou je sais pas quoi

(36')ch_CD2: en plus il s'appelle chipper

両者を比較すると、ou JSPQ の存在により、発話が伝達する命題内容の真理条件がより緩やかになっていることがわかる。すなわち、ou JSPQ がなければ、il の指示対象の名が chipper である場合に限り、真となる命題内容を伝達するが、ou JSPQ を伴うと、それ以外の類似の名であったとしても、真となる命題内容を構成する。したがって、JSPQ は命題内容の真理条件に影響を与えていることが確認できる。ben や bon といった談話標識が、真理条件と無関係であることを考えると、この点は無視できない。

一方 3. については、JSPQ が接続詞なしでそのまま先行の発話に付与されており、統語的なつながりはないといえる。ただし意味的には、2. と同様、その存在により、発話が伝達する命題内容の真理条件がより緩やかになるという点において、談話標識の意味的な特徴を欠いていることになる。

4. は完結した発話の中に、統語関係を持たない形で挿入されており、統語構造に組み込まれていない。意味的にも 2. や 3. と異なり、命題内容の真理条件に影響を与えていない。話者が後続する発話を思考していることを明示するのみである。

最後に 5. は、JSPQ が直接目的補語や主語といった統語的な位置を占めていることからわかるように、統語構造に組み込まれていることは明らかである。意味的にみると、JSPQ はその名詞句の指示対象をまったく限定していない。したがって、命題内容の真理条件になんら関与していないことになる。

よって、用法 4. のみが談話標識の統語的・意味的特徴を有しており、それ以外の用法はなんらかの形で、談話標識の特徴を欠いていることになる。

4. おわりに

以上の考察をまとめる。JSPQ は談話を円滑に進めることに貢献する、という広い意味での談話標識であると考えることが可能である。一方で、他の談話標識がもつ基本的な特徴と突き合わせたところ、JSPQ は ben、bon、tiens

といった典型的な談話標識とは区別すべき性格をもつ用法を備えていることがわかった。とりわけ用法 2. と 3. は命題内容の真理条件に影響を与える意味を備えており、談話標識の意味的な特徴に反する。また用法 5. は文の統語構造に組み込まれることが可能であり、統語的な特徴にそぐわない。さて、用例数をみると、109 例の JSPQ の生起のうち、判断が困難な 10 例を除くと、用法 1. と 4. は合わせて 10 例のみで、それ以外の 89 例は用法 2. 3. 5. に当たる。これらの点を考慮すると、JSPQ は、ben、bon、tiens といった談話標識とは異なる枠組みで分析したほうが、その特徴をよりうまくとらえることができるのかもしれない。とりわけ、用法 2. と 3. に関して、命題内容の真理条件を緩やかにする働きがある、という点から、JSPQ はヘッジの一種としてとらえることが可能であると考えられる。また用法 5. は一種の不定代名詞に相当する役割を担っていることから、文文化の可能性を指摘できる。それに関連して、現代フランス語において je ne sais quoi (je-ne-sais-quoi と、ハイフン付きで表記されることもある) という名詞がすでに存在する。こちらは辞書に記載されるほどに定着しており、どちらかといえば文語的で、Grand Robert によると古めかしい文体に属する。さらに、JSPQ の用例収集を行っているとき、quoi を伴わない je sais pas それ自体、頻繁に発話の節々に挿入されていることに気が付く。一例挙げておこう。

- (37) BA725: euh quand arrivent sept heures du matin parce qu'on se lève très tôt dans mon métier quoi
 BA725: quand arrivent sept heures du matin
 BA725: que tout est net tout est bien présenté
 BA725: on a une satisfaction
 BA725: intérieure
 BA725: euh *je sais pas* euh de de travail bien fait

je sais pas の役割は JSPQ の用法 4. に近く、後続する発話内容を思索してい

る印象がある。je sais pas については、談話標識の枠組みで分析した Dostie (2016) がすでに存在しており、je sais pas と JSPQ の比較は JSPQ を特徴づけるうえで有効であると思われる。以上の点を視野に入れつつ、引き続き考察を重ねていきたい。

参考文献

- Andersen, H. L. (2007), « Marqueurs discursifs propositionnels », *Langue française* 154, 13–28.
- Dostie, G. (2004), *Pragmaticalisation et marqueurs discursifs : Analyse sémantique et traitement lexicographique*, Bruxelles, Duculot / De Boeck.
- Dostie, G. (2016), « Le Corpus de français parlé au Québec (CFPQ) et la langue des conversations familières : Exemple de mise à profit des données à partir d'un examen lexico-sémantique de la séquence *je sais pas* », *Corpus* 15, *Corpus de français parlé et français parlé des corpus*, 115–133.
- Dostie, G. et Pusch C. eds. (2007), « Présentation Les marqueurs discursifs. Sens et variation », *Langue française* 154, 3–12.
- Ducrot, O. et al. (1980), *Les mots du discours*, Paris, Minuit.
- Hansen, M.-B. M. (1995), « Marqueurs métadiscursifs en français parlé ; l'exemple de *bon et ben* », *Le Français moderne*, 63 (1), 20–42.

使用コーパス

- ATILF-CNRS & Université de Lorraine (2016), *Base textuelle FRANTEXT*, Version décembre 2016. <http://www.frantext.fr>
- Université d'Orléans, en partenariat avec le CNRS, le Ministère de la Culture et la Région Centre (1968–2014), *Enquêtes Sociolinguistiques à Orléans*, <http://eslo.huma-num.fr>